

実践団体情報

記入日	2019年12月25日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
代表者名	大西雅人
プラン全体のタイトル	「高校生が作る地区防災計画」
電話番号	0880-43-1079
メールアドレス	ogata-h@kochinet.ed.jp
実践団体の説明	本校は高知県の黒潮町にある唯一の高等学校である。南海トラフ地震における甚大な被害が予想されるなかで、防災教育に力を入れている。地域から協力を得やすい環境を活かし、近隣にある役場、保育園、小学校、中学校、地域住民との連携した防災活動に取り組んでいる。
所属メンバー	（代表）校長：大西雅人 （担当）教頭：上原健 教諭：浦田友香 近森美保
活動地域	高知県幡多郡黒潮町
活動開始時期・結成時期	2016年
過去の活動履歴・受賞歴	（2016年）「世界津波の日」高校生津波サミット議長校 （2018年）防災教育チャレンジプラン優秀賞

プラン全体の概要	<p>黒潮町では2015年から町内61地区において地区防災計画の策定を推進している。生徒在校時に被災した場合の本校を中心とした仮のコミュニティを想定し、高校生が中心となって防災計画を充実させることに取り組んだ。</p> <p>今年度は地域に積極的に出向き、昨年度の活動をより実践的に発展させ、その活動の中で生徒の防災意識や地域貢献への意識を育てたいと考えている。</p>
----------	---

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・教員防災教育プロジェクトチームを編成 ・「地域学入門」「地域学Ⅰ」「地域学Ⅱ」の指導計画を作成 ・生徒防災委員会を編成 		
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プロジェクトチーム会（月1回） 		<ul style="list-style-type: none"> ・保小中高合同避難訓練&交流会を実施 ・第1回炊き出し訓練
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プロジェクトチーム会（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生対象のクイズ大会のクイズを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・クイズチャンピオンの運営に参加
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プロジェクトチーム会（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのオリジナルHUG実践から、マニュアルや備蓄品に対する改善案を考える。 ・逃げトレ事前学習会 	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの改善案を黒潮町役場へ提言 ・逃げトレを用いた避難訓練① ・福祉避難所におけるオリジナルHUG実践 ・逃げトレ訓練①の住民の方に対する報告会
8月		<ul style="list-style-type: none"> ・AMD A 中学高校生会との交流会での取組発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・AMD A 中学高校生会との交流会にて防災の取組発表と炊き出し訓練
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プロジェクトチーム会（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での出張HUGに向け、発表準備 ・小学生への出前授業のための防災カルタづくりスタート 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町総合避難訓練に参加。全校生徒でオリジナルHUG実践
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育プロジェクトチーム会（月1回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県津波サミットでの発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校への出張HUG ・メキシコ行政官の方との防災交流会

			<ul style="list-style-type: none"> ・高知県高校生津波サミットに参加 ・京都大学准教授の伊藤喜宏先生のご講演&メキシコ行政官の方との勉強会 ・逃げトレを用いた避難訓練② ・逃げトレを用いた避難訓練③
11月	・防災教育プロジェクトチーム会（月1回）	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町地区防災計画シンポジウムにむけての発表準備 ・夜間避難所運営訓練の準備 ・逃げトレ訓練の結果検証会 	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町地区防災計画シンポジウムにて発表 ・夜間避難所運営訓練 ・逃げトレを用いた訓練の報告会
12月	・防災教育プロジェクトチーム会（月1回）	・ロクロ体操講習会	<ul style="list-style-type: none"> ・高知市の小学生への出前授業 ・黒潮町ボランティアフェスティバルにて取組発表
1月	・防災教育プロジェクトチーム会（月1回）	・みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会での発表準備	<ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町福祉避難所開設・運営訓練 ・みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会に参加
2月	・防災教育プロジェクトチーム会（月1回）	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業の準備 ・逃げトレ訓練の報告会準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣小学校への出前授業 ・聴覚障がい者対象の防災学習会 ・逃げトレ訓練の報告会 ・JICAとの交流会
3月	・防災教育プロジェクトチーム会（月1回）		



<p>プラン全体の反省点・ 課題・感想</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジプランの中で始めた活動を継続していくことが大きな課題である。そのために防災活動の年間行事予定の確立と、教科の授業と防災を関連させるカリキュラムが必要である。 ・ これまでの活動をなぞるだけでなく、新たな視点で防災活動を計画して行くことが必要である。そのためには絶えず地域住民の方や町役場の方との連携を続けていく必要がある。 ・ 生徒が出した防災活動の案の中には、年度内に行動にまで移せなかったものが多くある。それを次年度後輩たちに引き継いでいく工夫が必要となる。 <p>【感想】</p> <p>昨年度からの取組を地域の方に広く知っていただくことができ、防災活動を地域と連携して行いやすい環境が整ったことが成果として挙げられる。地域住民の方、近隣の小学校や中学校、町役場、周辺の指定避難所と協働した活動を数多く行うことができた。</p> <p>また、学校外の方々との関わりのなかで、生徒たちが防災に対する関心と責任感を持ち始める様子が見られ、大きな教育効果が挙げられたと感じている。</p> <p>黒潮町の課題でもある要配慮者の方に対する支援についても、わずかではあるが関わることもできた。一つ一つは小さなことであるが、一人ひとりの不安を少しでも解消するような活動を、これからも行っていきたい。</p>
<p>今後の活動予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2月に防災カルタを用いた近隣の小学校への出前授業を計画している。 ・ 来年度以降も、防災に関する地域課題を町役場や住民の方と一緒に考える場を設ける。

実践したプランの内容と成果

記入日	2020年1月11日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	1
タイトル	保小中高合同避難訓練&交流会
実践担当者のお名前	浦田友香 野町純一

実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数時間
実践活動を実施した日時	2019年5月15日 9時～11時
実践の所要時間	2時間
実践の運営側で動いた人の人数	20人
防災教育の対象者の属性	保育園児・小学生（低学年）・小学生（高学年）・中学生・高校生・教職員/保育士等・防災関係者
防災教育の対象者の人数	約400人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県幡多郡黒潮町
実践を行った具体的な場所	錦野公園

達成目標	・合同で避難訓練と交流会を行い、緊急時には協力できるよう、年齢の異なる子どもたち同士のつながり作りをする。	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	少し
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>①事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒防災委員会が、小学生から高校生が一緒に行えるレクレーションについて考え、計画する。 <p>②避難訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園小学校中学校高校が一斉に高台にある避難所を目指して避難訓練を行う。高校生が保育園に向かい、園児の避難を手伝う。 <p>③交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校生が司会を担当し、レクレーションを行う。 ・小学生から高校生まで約 350 人で下の名前の「あ行」「か行」「さ行」…のグループに分かれる。 ・出題される防災クイズに、グループで考え、答える。 ・被災時に役に立つ紙一枚で作れる箱作りにグループで挑戦する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年行っている近隣の保育園・小学校・中学校との合同避難訓練であるが、これまでは避難場所に避難するだけにとどまり、子どもたち同士の交流はなかった。今回は高校生が中心となり、限られた時間ではあるが子ども同士の交流ができた。 ・高校生にとっては、緊急時に自分たちが支えるべき存在が身近にいることを実感できる良い機会になった。 ・保育園・小学校・中学校・高校の間で、緊急時に協力できる関係を築く第一歩となった。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>少し</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>かなり</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>


課題・苦勞・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校から高校までの日程を合わせることは容易ではなかった。 ・幅広い年齢で協力できるレクリエーションを考えることは難しかった。 ・人数が多く、会場は狭かったため、煩雑な状態となった。レクリエーションの内容や実施方法については改善の余地があった。
----------	---

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	防災教育に取り組む高等学校の方々
伝えたい内容	今回の活動を通して、自分より年少の子どもたちの前では、高校生が普段は見せないリーダーシップや責任感を発揮することを学びました。

記入日	2020年1月11日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	2
タイトル	避難所運営マニュアル改善提案
実践担当者のお名前	浦田友香

実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	1週間
実践活動を実施した日時	2019年7月23日
実践の所要時間	1時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約10人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県黒潮町
実践を行った具体的な場所	黒潮町役場

達成目標	・オリジナルHUG実践により気づいた本校の避難所としての課題を、改善につなげること。	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>① オリジナルHUG実践で気づいたことをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度、「大方高校オリジナルHUG」を作成し、全校生徒で、地域の方と、行政の方と、教職員で、外部の方と…と、たくさんの実践を重ねてきた。 ・その度行われてきた議論について「オリジナルHUG」を作成した「地域学」受講の生徒がまとめた。 <p>② オリジナルHUG実践から見た課題をまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルHUG実践をする中で気づいた、既存の避難所運営マニュアルに対する改善案をまとめた。(例えば不足している備蓄物についてや、定められた炊き出し場所やごみ置き場の変更案など) <p>③ 黒潮町役場への提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒潮町役場の情報防災課の職員の方々にお時間を頂き、生徒からマニュアルの改訂案について提言を行った。 ・生徒の提案に対して、役場の方から意見を頂くなどして、議論することができた。 
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オリジナルHUG実践は昨年度まではあくまで机上の訓練としての学習活動であったが、実際の避難所の改善として具体的な行動につながった。 ・生徒が昨年度取り組んだ、本校の実状に合わせた「大方高校オリジナルHUG」の作成が、自らのアイデアで実際に既存のマニュアルの改訂につながる第一歩となった。生徒の自己有用感にもつながったと考えられる。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度生徒たちが作成し、何度も実践したオリジナルHUGの活動を、実際の避難所運営に活かすというところまで行動に移したことで、生徒たちは一定の達成感を感じることができたと考えられる。 ・役場との議論を更に具体化し、実現することは次年度以降に持ち越された。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	黒潮町役場情報防災課

記入日	2020年1月11日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	3
タイトル	逃げトレを用いた避難路検証と報告会
実践担当者のお名前	浦田友香 近森美保

実践にかかった金額	ほぼ0円
実践の準備にかかった時間	1週間
実践活動を実施した日時	2019年7月～2月
実践の所要時間	20時間
実践の運営側で動いた人の人数	20人
防災教育の対象者の属性	高校生・地域住民
防災教育の対象者の人数	約200人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県黒潮町
実践を行った具体的な場所	黒潮町芝・早咲・入野本村・新町地区
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	「逃げトレ」アプリ

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい道路の開通により緊急時の避難に不安が生まれた地区住民の方と一緒に、逃げトレを用いた避難路検証を行い、避難の課題を知る。 ・高校生が呼びかけを行うことで地区住民の防災活動を活性化させる。 	
どの力を身につけようと思いましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>① 事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 検証する避難路や避難方法のパターン(車いすで、自動車で・歩いてなど)を決定し、グループに分かれる。 <p>② 逃げトレ訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各地点から同時に避難訓練を開始し、「逃げトレ」アプリを用いて安全に避難できるかどうか検証する。 <p>③ 報告会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 後日、地区住民の方に集まっていただき、避難検証の結果と安全に避難するために何が必要か(例えば、途中のブロック塀の撤去、手ぶらで避難するための工夫、家具固定など)ということについて高校生が提案する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自動車で避難、車いすで避難、いつも横になっているベッドから玄関先まで、など様々な避難検証を行うことができ、個別の不安にアプローチすることができた。 ・ 地域住民の生の声を高校生が直接聞くことで、生徒の地域の防災に対する関心や活動に対する意欲が向上した。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 住民の方との連携や当日の段取りなど、京都大学の方や役場の方のご協力のもとに行うことができた。本校の教職員と生徒だけでは実施が困難である。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	黒潮町役場情報防災課
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	杉山高志さん、小西慶哉さん
関係者の説明	京都大学情報学研究科の方

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい内容	「逃げトレ」のアプリを用いることで、ただ避難して終わりではなく、避難を検証し、反省し、より良い避難を考えることにつながっていくことができると知りました。これからも避難訓練に何かアイデアをプラスすることで、実践的な訓練ができるということを学びました。

記入日	2020年1月13日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	4
タイトル	炊き出し訓練①②
実践担当者のお名前	浦田友香 野町純一

実践にかかった金額	5万円未満
実践の準備にかかった時間	1日
実践活動を実施した日時	2019年5月15日11時～15時 2019年12月24日11時～15時
実践の所要時間	8時間
実践の運営側で動いた人の人数	20人
防災教育の対象者の属性	高校生
防災教育の対象者の人数	約90人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県黒潮町
実践を行った具体的な場所	大方高等学校

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた条件のなかで、より良い行動を考え工夫することを体験する。 ・教員に頼らず、生徒同士で協力して何かに取り組むことを体験する。 	
どの力を身につけようとしてきましたか？	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
実践内容・方法	<p>【5月】</p> <p>① 事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ貸し出し物を提示する。（炭・ドラム缶コンロ・トング・ライター・鉄板・紙皿）それ以外は貸し出ししない。 <p>② 炊き出し訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は各自家庭から一つずつ食材を持ち寄る。 ・グループの食材を合わせ、限られた道具を用いて調理する。 ・コンロの準備、火おこしなどはすべて生徒のみで行う。 	

	<p>③ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・うまいかなかったところや、学校の準備物であったらよいと思うもの、など振り返りを行う。 <p>【12月】</p> <p>① 事前指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらかじめ使用可能な食材を提示する。 ・6人グループを決めておく。 <p>② 炊き出し訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校食堂で電気が使えず、各グループに一つのガスコンロがあるという状況で、調理を行う。 	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外で行った5月の炊き出し訓練では、火をつける作業一つとってもうまいかないという体験をすることができた。 ・12月の訓練では、食材が限られている中でメニューを決め、自分たちの手で調理することができた。 ・生徒同士が限られた資源の中で、協力し合いながら活動することができた。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>大いに</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>大いに</p>
<p>課題・苦勞・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・5月と12月に異なる条件で炊き出し訓練を行った。5月にはうまくできなかったことが12月にはうまくできたり、新しい課題が見つかったりと、有意義な取組となった。 ・食材を制限するだけでなく、使える水の量を制限すると、更に生徒の思考力や判断力を試すことができると感じた。 	



<p>★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ</p>	
<p>伝えたい内容</p>	<p>炊き出し訓練も、食材や道具を制限したり、場所を変えたりして、色々なパターンで行うことができると知りました。訓練を、生徒にとって新鮮で面白い活動にする工夫が、意欲の向上につながることも学びました。</p>

記入日	2020年1月13日(2019年度のチャレンジプラン)
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	5
タイトル	出張HUG
実践担当者のお名前	上原健 近森美保

実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年7月10日16時～18時 2019年10月5日9時～11時
実践の所要時間	4時間
実践の運営側で動いた人の人数	5人
防災教育の対象者の属性	中学生・高校生・教職員・保護者・PTA・地域住民
防災教育の対象者の人数	約40人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県幡多郡黒潮町／高知県四万十市
実践を行った具体的な場所	にしきの広場(福祉避難所)／蕨岡中学校

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・本校が作成したオリジナルHUGの活動を、地域の方や近隣の中学校にも広げる。 ・立場の違う人たちと一緒にオリジナルHUG実践を行うことで、本校の生徒たちが新たな気づきを得る。 	
どの力を身につけようとしていましたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>【出張HUG in 福祉避難所】</p> <p>①事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害時、要配慮者の方に必要な支援について、DVD、特別支援学校の先生の講義、被災地の高校生へのインタビューなどから学習する。 ・元々のオリジナルHUGに加え、要配慮者を想定した架空の人物カードを作成する。 ・福祉避難所の見取り図を用意する。 <p>②福祉避難所でオリジナルHUG実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成した本校のオリジナルHUGを用いて福祉避難所の職員の方とHUGを行う。 ・本校生徒と職員の方とで振り返りを行い、一般の避難所と福祉避難所との連携について確認する。 <p>【出張HUG in 蕨岡中学校】</p> <p>①事前準備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の防災活動と、オリジナルHUGを作成した過程についてまとめた発表の準備をする。 <p>②蕨岡中学校でオリジナルHUG実践</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校の参観日の一環として、中学生の保護者の方や地域の方にも参加していただき、オリジナルHUGを実践する。
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度作成して、多くの方々と実践してきたオリジナルHUGであるが、これまでは本校に来てくださった方との実践にとどまっていた。今回はこちらから出向き、他の施設を想定してオリジナルHUGを行うことができた。 ・福祉避難所での実践においては、福祉避難所に指定されたばかりで不安と戸惑いのある施設職員の方の声に応えることができた。 ・施設利用者のことを具体的に頭に思い浮かべ、真剣に議論する職員の方の姿から、本校の生徒が良い刺激を受けることができた。 ・被災時には本校が避難所になるが、単体として動くだけでなく近隣の他の避難所との連携も必要であるということに気付くことができた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校での出張HUGは、中学生の保護者や地域住民の方とも一緒に実践をすることができ、様々な目線で避難所運営を考えることができた。 ・実践の中で高校生にはない発想を中学生から聞くことができ、新たな発見があった。 	
どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに
課題・苦労・工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・大人はすぐにゲームの要領がつかめるが、中学生は最初どのような意見を出せばよいのか戸惑っていた。要領がつかめたころには制限時間がきてしまったので、小学生や中学生もゲームに参加しやすい工夫をこれから考えていきたい。 	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	蕨岡中学校
★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	あったかふれあいセンター にしきの広場
関係者の説明	デイサービス施設

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい内容	オリジナルHUGが、人物カードや見取り図を変えて色々な施設で実践ができるということに気がきました。そして色々な立場の方が、高校生と一緒に実践をしたいと思ってくださっているということを知り、ありがたく思っています。

記入日	2020年1月13日（2019年度のチャレンジプラン）
実践団体名	高知県立大方高等学校
実践番号	6
タイトル	防災カルタづくり&小学校への出前授業
実践担当者のお名前	浦田友香 宮尾栞 山本奈々

実践にかかった金額	1000円未満
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	2019年9月～2020年2月
実践の所要時間	15時間
実践の運営側で動いた人の人数	3人
防災教育の対象者の属性	小学生（低学年）・高校生
防災教育の対象者の人数	約30人
実践を行った都道府県と市区町村	高知県幡多郡黒潮町
実践を行った具体的な場所	大方高等学校・入野小学校（予定）

達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生が防災について考えるきっかけを、高校生の手で作る。 ・近くにいるが普段は関わる機会のない小学生と高校生の交流の場を作ることで、一緒に防災に取り組んでいくという態度を養う。 	
どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	少し
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに

<p>実践内容・方法</p>	<p>①アイデアを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の小学生と一緒に遊べるゲームや遊びのアイデアを考える。 ・小学生にとって楽しく取り組めるもの、小学生が防災について考えるきっかけになるもの、という条件のもとアイデアを出す。 <p>②防災カルタづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あ」～「わ」までの読み札と、絵札を作成する。 <p>③ルール作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「勝負に重点を置いて読み札を最後まで聞かない」「札をとるだけで、防災の知識が身につかない」などの問題点を洗い出し、「ダンゴムシのポーズで読み札を最後まで聞いてから札を取る」「札を取った後、その札にまつわる質問をし、小学生に答えてもらう」（例えば備蓄品に関する読み札であれば、お家で何か備蓄しているものはありますか？など）など問題点を解決する細かいルールを定める。 <p>④ 出前授業（2月7日実施予定）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣にある小学校へ出前授業を行う。 	
<p>得られた成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のための遊びを作るということで、生徒たちからアイデアが多く出た。今年度から防災活動に本格的に取り組み始めた2年次生にとって、大きな活躍の機会となった。 	
<p>どのくらい身につきましたか？</p>	<p>知識・技能</p>	<p>かなり</p>
	<p>思考力・判断力・表現力</p>	<p>大いに</p>
	<p>学びに向かう力・人間性</p>	<p>かなり</p>
<p>課題・苦労・工夫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒には、常に小学生の目線や気持ちを考えながら作るよう指導した。 ・イラストや文字の大きさ、読み札の言葉遣いなど、試行錯誤をする活動にした。「地域学」という授業で行っており、創作活動が得意な生徒ばかりではないので、その点は苦労もあった。 	

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

伝えたい内容	防災教育チャレンジプランの中間報告会でこの活動を報告したところ、アドバイスを頂くことができました。そのアドバイスを生徒の活動に活かすことができたので、防災の専門家の方や、外部の方の方に意見を求め、生徒に伝えていくことも重要であると学びました。
--------	---